

教育委員会だより

令和6年10月24日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

よろしくお願いします ～新教育委員さんのご就任～

9月末をもって退任された木下貴子さんの後任として、新たに渡邊加余子さんが委員に就任されました。10月1日の就任からひと月が経とうとしていますが、教育長訪問への同行、東濃西部教育委員会研修会への参加、精華小学校研究発表会の参観と精力的に活動いただいています。少し前になりますが、8月22日、9月議会の初日終了後に議場でご挨拶いただきました。子育てや親育ち、教育に対する熱い思いを語られ、議員・執行部からは大きな拍手が湧き起こりました。

下半期からのご就任ですので、今年度の園・学校への教育長訪問はかなり進んでしまっていますが、できるだけ早いタイミングで校長会等の折にご挨拶いただければと考えています。これからの多治見市教育の発展のためにお力添えいただきますよう、どうかよろしくお願いします。

豊かな調（しらべ） ～笠原幼保小中一貫教育研究会～

10月21日（月）に、第22回の研究会を開催しました。冒頭に笠原小中学校の校歌を披露いただきました。水野豊会長と加知昌彦笠原小学校長による歌詞を加納徳子さん（陶都楽友協会）が曲に乗せて歌ってくださいました。文字で読んだだけの歌詞から受けた印象とはまた違った印象を受け、その“豊かな調”に一同感動する場面もありました。今後、編曲によって微調整を加えいよいよ完成の見込みです。新しい校歌と出会う子どもたちを想像するだけでワクワクします！

協議の中では、事務局からの提案・報告に対して、各委員さんから義務教育学校になった際の特別支援学級の編成や学年の区切り（4・3・2）の位置づけ、ブレザー制服への移行期間、英語教育の充実、小中学校と笠原こども園との連携、来年度の小中合同運動会の在り方などについて活発にご意見をいただきました。

各委員さんのご発言からは、開校にあたっての様々な不安以上に大きな期待を感じました。いただいたご意見をふまえ、令和8年4月にはよりよい形でスタートできるようにしっかりと準備を進めていきます。



“高め合う子”に学ぶ ～精華小学校研究発表会～

10月22日（火）に精華小学校の研究発表会が開催されました。多治見市教育委員会と東濃地区教育推進協議会の指定を受け、3カ年に亘る教育実践の成果を公表いただきました。市内の小学校を中心に東濃地区全体から400名以上の参観者がありました。前回の発表会はコロナ禍でのオンライン発表会という異例の形でしたが、今回は参集型で実施することができました。精華小学校が大切にしている“学び合う子”の具現に向けたこれまでの営みを、子どもたちと先生方が一体となって45分間の学びの姿で示してくれました。



各教科の授業研究会においては参観者から様々な質問や意見が出され、それに対して授業者がこれまでの実践をもとに応答しました。教育の手法に“ベスト”といえるようなものは無いのかもしれませんが、このように意見を交わすことによって“ベター”な教師の指導や子ども主体の学習の在り方について考えることができます。そういう意味において、今回の発表会は先生方が多くを学び得た機会であり多治見市及び東濃地区全体の教育の充実に資するものであったと思います。“無制限”で教育実践に向かうことが難しい状況の中で、子どもたちとともに一杯の姿をお示しいただいた先生方の歩みに改めて敬意を表したいと思います。

副教育長のひとりごと ～働き方改革と働き甲斐～

教職員の働き方改革については、国も各自治体も重要課題の一つとして取り組んできています。本市においても超過勤務時間縮減や業務改善（スリム化・効率化）を軸に一定の成果を上げてきました。また、教員に残業代を支払わない代わりに支給する給与の上乗せ分4%を10%以上に引き上げる「給特法」の改正案も来年の通常国会に提出される見込みなど、処遇改善の動きも加速しています。

一方で、時間縮減や業務改善（特にスリム化）はある意味“限界値”に達しつつあるのではないかと感じています。今後の改革推進が教職員の足かせになってしまわないよう、学校訪問の折には“働き甲斐”についてお話ししています。ちょっと立ち止まり、教職を志した頃の情熱、所属する職員集団への貢献（経験や分掌に応じた）、あるいは家庭・地域の一員としての生き様などについて自身を見つめ直すことで、改めて日々の業務に向かうことへの意味づけをして欲しいと願ってのことです。「何のために」がぶれてしまわないように…。